



カノコソウの来歴及び栽培の実態

地域特産物マイスター（薬用作物）

古木益夫



カノコソウとは

植物名：カノコソウ（オミナエシ科
カノコソウ属の多年生草本）

生薬名：カノコソウ（吉草根）

栽培年数：1年

薬用部位：根および根茎（乾燥した
もの）

効能：鎮痛剤としてヒステリー、神
経過敏などに用いる。

主に「ホッカイキツソウ」が用いら
れる。生産量・面積ともに北海道が
最も多い。

北海道のカノコソウの来歴について

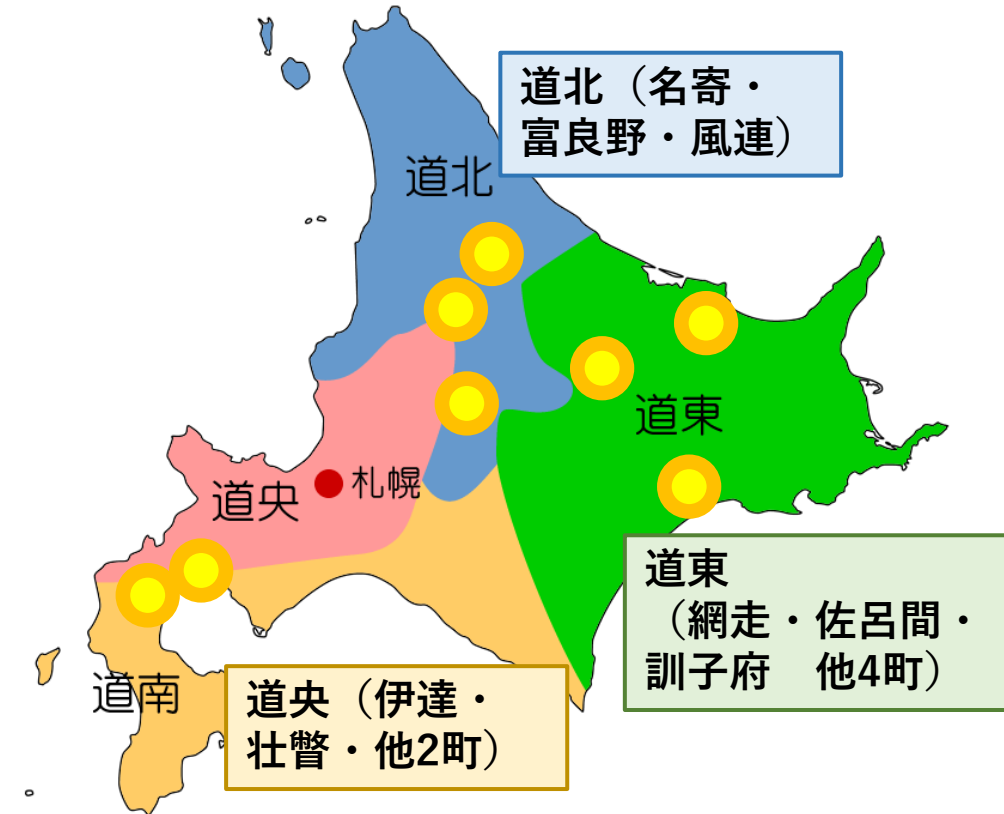
【北海道の最大生産地：訓子府町の歴史より】

- 大正3年 杉山国造氏が高園地区に入植
- 大正7年 常呂町より苗を入手して栽培
(センキュウ4反、トウキ6反、カノコソウ2反)
- 訓子府の薬草栽培は昭和13年頃には作付け面積320haまで広がる。戦後は50haに減少。

【水谷次郎日記より】

大正11年

植木万作氏より苗を入手し試作栽培を実施。



北海道のカノコソウの過去・現在

【過去】カノコソウの国内需要が少ない時代は訓子府、佐呂間で数戸の農家が栽培



平成7年～ 風連町薬草生産組合により生産拡大



平成15年頃 在庫が嵩み減反。種苗維持に努める。



平成17年 価格上昇・原料不足→増反が必要になり各地で栽培が開始。



平成25年 名寄市の出荷が開始、現在に至る。

近年の変化：

①農薬登録の拡大
(主に除草剤)
平成25年頃～

②土落とし、洗浄、
乾燥の機械化

カノコソウの栽培法（品種：ホツカイキツソウ）

【1】立地条件

壤土・砂壤土・火山灰質土壌など土質は特に選ばない。
排水の良い旁軟な土地でPH6.0くらいが良い。

【2】気候条件

寒暖にあまり関係しないが、どちらかと言えば冷涼な気候が良い。

【3】苗作り

- ・種苗は前年度の収穫圃場より無病の親株を使用する。
- ・苗は芽数が3～4芽を付けるよう分割する。大株からは5～7株位の苗が取れる。
- ・苗は親株の土を落として細根をある程度切り落として包丁、剪定ハサミで分割する。



カノコソウの株（分解前）



定植用に分解したカノコソウ

カノコソウの栽培法

【4】 種苗消毒

分割した株は無病であっても種苗消毒を行う。消毒はベンレート水和剤で160倍液に30分間浸漬する。

【5】 定植時期

北海道 秋植えの場合 9/下～10/上
春植えの場合 4/下～5/上

【6】 栽植密度

畝間 66cm × 株間30cm

畝間 70cm × 株間30cm など（所有する機械に合わせる。）



定植前のベンレート浸漬処理



定植後、萌芽した状態

【7】定植方法

・ポット植え定植（人力）

秋植えの場合土壌が積雪で土が固くなり春先の萌芽がしづらく、枯死する株が欠株となり収量に影響を及ぼすため、前年度にポットに移植して翌春植える。

・株苗定植

（人力） 芽を上向きにして植える

（機械植え（ポテトプランター）） 株芽を上にして植えることは難しいが、左右または下になっても萌芽の遅れ問題なし

【8】施肥及び施肥量

・基肥 堆肥 3,000kg/10a～

化成（S080） 120～140kg/10a

炭カル 150～200kg/10a

・上記肥料は全面散布し耕起、整地する。（ブロキャス、マニュアルプレッダー）

・追肥 6/上、7/中、8/上 NS248を20kg/10aを3回に分肥する。

（生育状態を確認して、ブロキャス及び人力による肥料をまく）

カノコソウの栽培法



ポットに仮植えしたもの



機械定植時に使うポテトプランター

カノコソウの栽培法

【9】中耕除草及び土寄せ

- ・定植後、雑草が発生したら中耕除草（管理機）。
- ・土寄せはストロンが伸びてくる時期に株元に覆土する。（管理機の培土器をつけて）
6/上～7/中頃までに追肥を兼ねて土寄せをするとよい。

【10】除草剤散布

時期 定植後にトレファノサイド 200～300ml/10a

萌芽後にモーティブを200～400/ml/10a

生育期にはセレクト乳剤を散布することができる（イネ科雑草）

（スプレーヤ及び背負い式動噴で散布）

【11】摘花

6/上～7/中

・萌芽が始めてくると花茎が伸びてくる。この除去を怠ると株が肥大せず収穫量を左右するので、開花前に切り落とす。

（ブラシカッター及び剪定ハサミなどで切り落とす。）



カノコソウの花

（咲かせてしまうと収量が減る）



開花前に摘花した状態

カノコソウの栽培法

【12】病虫害防除

病虫害 半身萎凋病（7月～、特に摘花後に発生する傾向）

→種苗消毒の実施、

被害作物（ナス科、ウリ科、アブラナ科など）の後作を避ける。

ネコブセンチュウ（8月頃）発生圃場での作付けを控える

うどんこ病 野菜用農薬で対応



半身萎凋病

【13】収穫時期 9/末～10/中

【14】収穫方法

- ・ポテトデガー、ワサビデガー等
- ・最近はポテトハーベスター（馬鈴薯の改良型）も使用する。



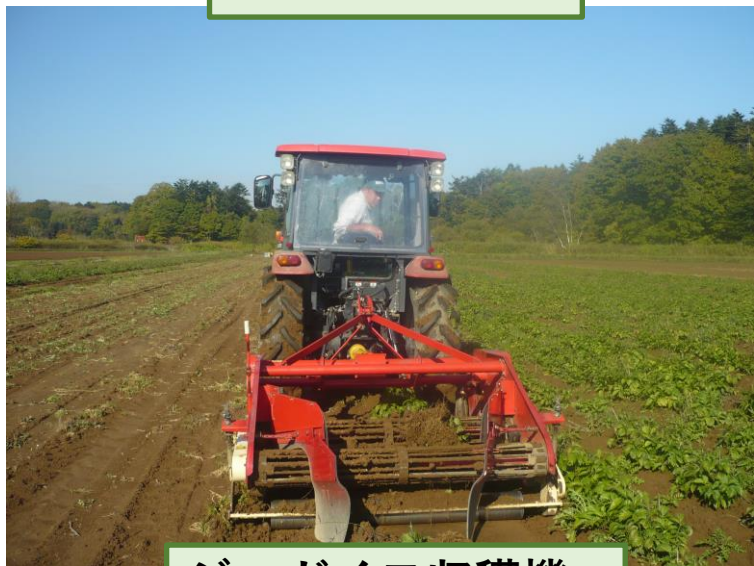
収穫直前のカノコソウ畑

【参考】 収穫

カノコソウの栽培法

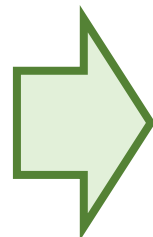


ワサビデガー

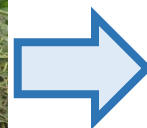


ジャガイモ収穫機

土の塊と一緒に掘り上がったものを集めます。



出来るだけ畑で土を落とします。



加工調整へ

大型機械の例：



大規模な畑では、大型のポテトハーベスターで収穫する場合があります。

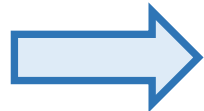
カノコソウの加工調整工程

【昭和時代】

掘り上げ



土落とし



洗浄



ハサかけ



①ワサビデガー②ポテトデガー

人カ

人カ

人カ



葉付きでの掘り上げの様子



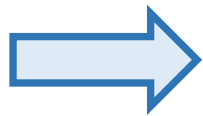
人カによる洗浄



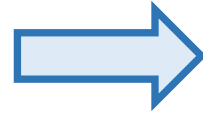
ハサかけ (写真は当帰)



茎葉除去



袋詰め



出荷

人カ

人カ

カノコソウの加工調整工程

【平成～令和】

茎葉除去

- ①チョッパー
- ②ブラシカッター

掘り上げ

- ①ワサビデガー
- ②ポテトデガー

土落とし

- ①人力（ケンザン型）
- ②機械（トロンメル）

根茎圧篇

- ①人力（カケヤでつぶす）
- ②機械（圧篇機でつぶす）

洗浄機



洗浄

- ①手洗い
- ②水洗攪拌機

シイタケ
乾燥機



乾燥

- ①平型乾燥機（小豆・大豆等）
- ②温風火力乾燥（国産生薬）
- ③シイタケ乾燥機

トロンメル



選別

人力

人力の例



袋詰

人力

出荷

カノコソウ 栽培暦 名寄Ver.

月 旬	4			5			6			7			8			9			10			11			12					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
作業 期				△—△			○—○			○—○						△—△														
				耕起・施肥・定植						追肥						収穫・調整・乾燥														
							○—○			摘蕾																				
							○—○			中耕除草																				
			○—○			除草剤散布			○—○			土寄せ																		

作業 内容	・基肥（10aあたり）	堆肥	3 t	消石灰	200 kg	肥料（S0-8-0E）	120 kg	～	・中耕除草	（管理機もしくはカルチベーター）					
	N:	12 kg	P:	21.6 kg	K:	12 kg	・土寄せ	（管理機による培土）							
	・耕起・施肥	基肥は、堆肥、石灰を耕起時に全面散布								・摘蕾	（剪定鋏、鎌、刈払い機など）				
	整地後、化成肥料を全層施肥 → ロータリー整地									・追肥（10aあたり）	NS248	20 kg～	生育期間3回		
	・定植	親株を5～6株に分割（親株の大きさ次第）								N:	4 kg	P:	0.8 kg	K:	1.6 kg
	種苗消毒	（ベンレート水和剤） 160倍液に30分間浸漬								・摘蕾	抽苔の花茎が伸びて来たら切除する。				
	種苗量	10aあたり5,000株								・土寄せ	株の分けつ（ストロン）が伸びたら軽く株元に土寄せする。				
	栽植密度	畝幅66cm×株間30cm または70cm×25cm など								・収穫	ポテトデガー、ワサビデガー、ポテトハーベスターなど。				
	定植方法	株苗の芽を上にして覆土 （覆土は馬鈴薯を植える要領）								・収量	10aあたりの平均反収量 300 kg前後				
	・除草剤	（トレファノサイド）		200～300ml/10a		（セレクト乳剤）		50～75ml/10a		最高反収量		500 kg前後			
									最低収量		100 kg前後				

カノコソウの課題①

- 使用できる農薬が少ない。→少しずつ登録農薬が増えている。

「カノコソウ」として登録のある農薬

【除草剤・土壌処理剤】 モーティブ乳剤、トレファノサイド乳剤

【除草剤・茎葉処理】 セレクト乳剤(全面散布)、ザクサ液剤(畝間)

【殺菌剤】 ベンレート水和剤(定植前浸漬処理)



モーティブ®乳剤



※これ以外は「野菜類」として登録ある農薬を使用してください。

カノコソウの課題②

収穫～加工調整に手間がかかる。→機械化・省力化は進行している。



カノコソウの栽培～加工調整

生育初期



萌芽した状態



生育初期の圃場



摘蕾実施後

生育中期



生育中期の圃場：ストロンが伸び、株と株がつながってきます。



マルチ使用の例

カノコソウの栽培～加工調整

生育後期



生育後期の圃場

大きく育った株

収穫



機械で掘り上げた状態。

土をふるった株の状態。

カノコソウの栽培～加工調整

加工調整



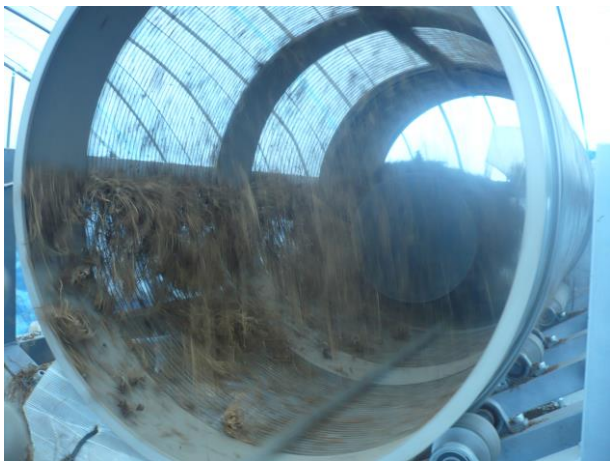
加工調整前の状態



洗浄の工程



土落しの工程



トロンメル(土落とし)



様々な乾燥方法

最後に

- 今回はカノコソウを題材にお話してきましたが、どの生薬においても生産方法の改良・改善は生産者にとって欠かせないことと思います。
- 今の日本で漢方生薬は我々の健康になくてはならないものであり、これからも新薬と併用して利用されることと考えます。
- 長い歴史のある国産の漢方原料が我が国で国民の健康に役立っていくことを節にお願い申し上げ、私の講演に替えさせていただきます。
- ご清聴ありがとうございました。